

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090400468		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家 小倉北 (2階・3階)		
所在地	〒803-0836 福岡県北九州市小倉北区中井5丁目3番11号 Tel.093-562-1521		
自己評価作成日	平成31年01月21日	評価結果確定日	平成31年03月04日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel.093-582-0294	
訪問調査日	平成31年02月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出来るだけ自由に暮らして頂けるようにその人らしさを大切にしている。以前よりは地域のイベント等参加できるようになった(地域の方々が協力的)ので随時イベントに参加して地域密着を行っている。スタッフ間においては言いたいことは伝えあい、経営理念にもある「徹底討論、徹底和解」でスタッフも言いやすい雰囲気で見えを言い合いご利用者のより良い支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「たのしい家 小倉北」は、小倉北区中井の利便性の良い住宅地の中にある、小規模多機能居宅介護事業所併設の、2ユニット(定員18名)のグループホームである。「グループホームは入居者様の家」をコンセプトに、家庭的な雰囲気の中で、利用者一人ひとりの個性を大切に、その方らしい暮らしの支援に取り組んでいる。法人全体で職員の教育研修体制を整え、受講した職員による伝達研修を行うことで、全体の質の向上に繋げている。協力医による往診と緊急時の対応、看護師、介護職員の連携で、24時間安心の医療体制が整っている。管理者は、定期的に職員と面談し、意見や要望、悩み等を聴き取り、働きやすい環境作りに努めている。運営推進会議の参加委員から情報を得て、地域の清掃活動やどんど焼き、市民センターの行事等に出かけ、少しずつ地域交流が広がり、開設3年目を迎え、地域に根差したホームを目指す、グループホームたのしい家小倉北である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型ということと地域との連携、関係作りを大切にしなければならないのでそのために何が必要か地域交流等の環境を作れる様に計画している。	毎日の朝礼時に経営理念を唱和し、理念の共有に努めている。地域密着型の意義をふまえて、地域の一員として交流に努める事と利用者、家族、職員が集う家庭的な家を目指す事をホーム独自の理念に掲げ、取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	上記の考え方において地域のイベントに出来るだけ参加し地域交流の実現、交流の機会が増えるようにイベント参加の計画を立てている。	運営推進会議に参加している町内会の役員や地域住民から、行事や活動の情報を受けて、地域の清掃活動や小学校で行われたどんど焼き、市民センターのイベント等に参加する等、少しずつ交流を広げている。	近隣の幼稚園、保育園との交流や小・中学校の職場体験やボランティアの受け入れ等、次世代との交流を含め、外部からの人の出入りの多い、開かれたホームを目指す取組を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々への認知症の方の支援方法等の話題はないので活かしているとはいえない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や介護保険課の方等参加頂き、助言等頂きながら進捗状況も出来るだけ報告し、施設ではこうしてまずとサービスの向上に生かせるよう一人一人意見の場を設けている。	家族や地域代表、地域住民、介護保険課、地域包括支援センター職員が参加して、運営推進会議を2ヶ月毎に開催している。利用者の状況や事故・ヒヤリハット、人員体制、研修、行事・活動等の報告を行い、参加委員からは、質問や意見、情報提供を受けて話し合い、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等で事業所の現状等報告している。密にというよりはわからないことは細かいことでも相談している。	運営推進会議に、介護保険課や地域包括支援センターからの参加があり、ホームの現状を報告し、助言や情報提供を受け、協力関係を築いている。管理者はホームの空き状況や事故等の報告を行い、疑問点、困難事例を相談する等、情報交換しながら連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回虐待と身体拘束についての研修を行っている。その中で身体拘束にあたる行為など周知できるように努めている。身体拘束適正化委員会の実施やスタッフへの回覧も行っている。行為においてわからないではいけないのでスタッフ同士で言動に注意している。	年2回、身体拘束についての研修を会議の後に実施して、身体拘束となる具体的な行為の正しい理解に努めている。また、身体拘束適正化委員会を開催し、禁止の対象となる具体的な行為の確認と全職員への周知を図り、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記と類似するが虐待防止委員会の設置に伴い各フロアのスタッフの言動はどうか確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度はグループホームにおいても関係してくる可能性もあるので知識を持つため理解しようとしているが、職員にまで周知はできていない。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、利用者一人ひとりの必要性を検討し、制度の活用に向けて支援が出来るよう、これから内部研修で学ぶ機会を設け、周知を図っていく予定である。	研修のテーマとして年1回は取り上げ、制度について学ぶ機会を設け、職員間の周知を図る事が望まれる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定等はその都度ご家族にお渡ししている。その場では疑問等わからない事あるので後日でもわからないことは聞いて頂けるように日々ご家族とコミュニケーションを取るようになっている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見等は運営推進会議や来訪時に聞き取りながら出来る限りは説明しながら反映につなげている。	日常の中で、利用者の意見や要望を聴いて、出来る事から反映させている。家族については、運営推進会議や面会時にコミュニケーションを図り、意見、要望を聴き取り、出された意見を運営に反映させている。	行事を兼ねた家族会の開催とホーム便りの送付を実現し、情報を共有する事で、共に利用者を支える信頼関係を築いていく事を期待したい。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	上記同様	月1回、フロア会議を開催し、利用者一人ひとりについてのカンファレンスを含めた話し合いを行っている。会議で出された意見や要望は、ホーム運営や業務改善に反映させている。また、定期的に個人面談を実施し、管理者は、「何でも言って下さい」と、職員が思いを表せる機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境も含め人間関係等大事になっていくが働きやすさ、意見が出しやすい環境を作れる様に努め、出来るだけスタッフの意見を通し次のモチベーションにつながるようにスタッフ同士で話し合い決めることが多い。結果チームワークや連携の大切さを理解できたと考えている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては性別、年齢も法人として定年制撤廃しているので判断基準とはならない。職員については得意、不得意もあるができるだけ自由に意見交換できるようにしている。	管理者は、職員の特技や能力を把握し、適材適所に役割分担を行い、現場の職員が働きやすい職場環境を目指している。また、意見や提案を出しやすい雰囲気作りを心掛け、風通しの良い環境作りに取り組んでいる。職員の募集は年齢や性別、資格等の制限はしていない。	管理者、看護師以外の職員も、外部研修に参加する機会を設け、職員が目標や向上心を持って働けるような取り組みを期待したい。
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人として、介護職としての成長できるように接遇等の研修を行っている。又、出来るだけ外部研修に参加しスタッフに周知できるように取り組むようにしている。	利用者の人権を守る介護サービスについて、職員会議や毎日の申し送りの中で話し合い、平日頃から意識づけを行っている。特に、慣れからくる言葉遣いの乱れ等、接遇には特に注意をして取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護技術はスタッフの間で力量はあるが、スタッフ間で共有したり項目によって研修に参加できるように取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム間ではなかなかできていないが小規模は連絡会等に参加又は運営推進会議での介護保険課より他施設はどうしてるか等の助言は頂いている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントからご家族と連携をとり、入居後も日々観察し、会話しながら本人の意向をスタッフ間で共有するようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずはご家族とご利用者との信頼関係を気づきながら自立支援を踏まえその都度ニーズを理解し合わせた支援を行う。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームにおいては共同生活であるので他施設よりは信頼関係を構築しやすい又はしなければならぬのでスタッフも共に生活するという意識を持って支援している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご利用者の関係維持に努め、出来るだけ本人のより良い生活支援を出来るようにご家族に情報提供しながら意見交換を管理者中心に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	例えば本人が通っていた美容院等継続して関係性を気づけるようにご家族と相談しながら支援している。	家族や親戚以外にも、昔の知り合いや友人等の面会が多く、必要があれば、職員が間に入る等して橋渡ししながら懐かしい時間を過ごせるよう配慮している。また、家族の協力を得て自宅への一時帰宅や美容院に出かける等、馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活においてはご利用者同士の関係性が一番重要視されるので新規入居者等は不安あるためスタッフが橋渡しとなり支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了者に関しては他施設に行かれた方は最初数か月は状態確認等施設間で連絡取り合うがそれ以降はできていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いは出来るだけ尊重しながら支援している。又、困難な場合はご家族と話し合い状況説明等行っている。	担当職員は、コミュニケーションを取る中で、利用者の思いや意向を聴き出して記録し、職員間で情報を共有している。意向表出が困難な利用者には、家族に相談したり、アセスメントシートを読み返す等して情報を収集し、職員が利用者へ声掛けしながら本人本位に検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント等で生活歴や趣味等確認している。又、新しい発見が出来るように日々お声掛けしながら支援している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人一人の心身状況、あるいは出来ることはなくさない様にスタッフ間で情報共有している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のフロア会議等でご利用者について話し合い、ご家族のご要望を尊重しながら介護計画を作成している。	面会時に家族の意見や要望を聴き取り、カンファレンスやモニタリングを実施し、利用者本位の介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化や重度化に合わせて、家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画の見直しをその都度行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り等で状態報告しながらフロア会議等でケアの統一を行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化に関しては臨機応変に対応できていないことがある。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員として地域との交流をメインに生活意欲を持ち地域との関係性づくりを気づけるように支援していく。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の状態を観察しながら訪問診療時に報告ご家族のご要望がある場合はその都度報告し薬の変更などあった場合もご家族へ連絡している。	入居時に、利用者や家族と話し合い、希望を大切に主治医を決めている。現在、ほとんどの利用者がホームの提携医による訪問診療を利用している。月2回の定期往診と緊急時の対応、看護師、介護職員との連携で、24時間安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職は日々よく話し合っより良いケアに努めている。訪問診療時も看護師が対応するが看護職の状態報告に応じて対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談員の方と連携を取りながら入院時は日々状態聞き取りながら早期に退院できるように支援している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急搬送時は病院はどこがいいか等確認している。その時々で対応するかを主治医に報告しているが、スタッフ間で共有できているかというところまで至ってない。	契約時に、緊急搬送時の病院の希望を尋ね、重度化や終末期に向けた方針については指針を基に説明を行っている。ホームで出来る支援について利用者や家族に説明し、承諾を得ている。利用者の重度化に伴い、家族や主治医と話し合い、利用者にとって最善の方法を確認しながら、終末期の支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアル作成や搬送時の施設連絡先等はすぐ見えるところに貼っている。AED等の訓練は定期的にはできていない。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は定期的に行っている。その際は役目をかえながら行っている。地域の方の参加等は今後運営推進会議後等に開催し地域の方への参加を呼び掛ける。	消防署の協力と参加を得て、年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施し、2階と3階の利用者18名を、夜勤者2名で一時避難場所に安全に避難誘導出来るよう取り組んでいる。非常災害時に備えて、カセットコンロ、懐中電灯、レトルトパック食品等の準備を行い、地域の方へ非常時の協力を呼び掛けている。	居室が2階3階にあるため、特に夜間の避難訓練に重点を置き、各ユニット、併設の小規模多機能事業所との連携を確認し、利用者を安全に避難誘導出来るよう、繰り返し訓練する事を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人間の尊重を大事にプライバシー配慮、信頼関係の構築に努め、接遇マナー等の研修を定期的に行っている。	利用者の人格を尊重し、プライバシーを守るサービスの提供について、職員間で話し合い、馴染みの関係の中でも、馴れ合いにならないように気をつけ、言葉遣いや対応に注意している。自分の思いを表す事の出来る方が多いため、傾聴に努め、本人が安心して暮らす事が出来るよう支援に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も本人の意思を尊重し、難しい状況でもご本人とお話している。自己決定においては判断難しい人でも質問等工夫している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人ご利用者の日常生活での時間を大事にし何事も個人差があるので希望に沿って支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で出来るだけ決めてもらうが、時折スタッフが提案しながら自分で判断できるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	固定ではなく様々な方へお手伝いのお声掛けをし出来ることは継続して行えるように支援している。又、役割を持って支援できるように支援していく。	栄養バランスやカロリー計算された配食サービスを利用している。月に1回程度、カレーやサンドイッチ、鍋等を作って食べる食レクを実施し、作って食べる楽しみの支援を行っている。また、利用者の希望を聴いてピザを取ったり、弁当を作ってドライブに出かける等、気分転換を兼ねた食の支援に取り組んでいる。	職員が検食を行い、固さや味付け、利用者の感想、残食等を検食簿に記録し、業者に改善を求める取り組みや、一皿手作りのおかずを添える等、家庭的な食事の提供に向けての取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事は記録をみながら各自確認している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアに関しては基本ご自身で出来ることはして頂く。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録を見ながら会議等で一人一人のトイレの間隔等の理解に努めそれに応じてお声掛けしている。又、表情を見ながら御声掛けしトイレで排泄できるように支援している。	利用者が重度化しても、トイレでの排泄を基本とし、職員は、利用者一人ひとりの生活習慣や排泄パターンを把握し、タイミングを見ながら声掛けや誘導を行い、失敗の少ないトイレでの排泄の支援に取り組んでいる。便秘解消のため、運動や食事を工夫し、個々に応じて快適に暮らせる支援を目指している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者において便秘の方は多いので飲み物、や食事の工夫(ヨーグルト等)調整しながら様子観察している。飲食だけでは限度もあるので運動する等工夫しよりよく便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望の時間がある方は出来るだけ合わせるようにしている。入浴時間もあまり長くはしないが適度にお声掛けしながら支援している。出来るだけ自身で行えるように時間をかけでも支援している。	入浴は、利用者の希望や体調に合わせて、週2、3回の入浴支援を行っている。時間についても、本人の希望を聴いて出来るだけ柔軟に対応している。また、入浴の時間は、職員が利用者とはゆっくりと話が出来る機会でもあり、しっかりとコミュニケーションを取りながら、楽しい入浴となるよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お屋に休息、部屋で横になったり個人の生活リズムを継続しながら支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療等で状態報告しながら医療と連携し介護職員も個々の服薬、理解に努め不明な点は看護師、主治医に相談しながら変化等気づけるように支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、趣味に沿ってレク等行い、日々新しい発見をしながらその人らしい生活を送れるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出時はご本人に確認しながら出来るだけ外出の機会を提供できるように努めている。又、地域イベントにもその都度お声掛けしながら支援している。	天気の良い日は近隣の公園まで散歩したり、ドライブを楽しみ、利用者の気分転換を図り、利用者がホームの中だけで過ごす事がないように支援している。また、外出レクリエーションを計画し、季節毎の花見や外食、買い物等、家族と協力しながら戸外へ出かけられるよう努めている。	職員の配置を工夫し、少しの時間を見つけては戸外に出かけられるよう、家族やボランティア、地域の方と協力しながら取り組んでいく事を期待したい。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設管理が多いが、買い物等出来るだけ選んで頂き、日常生活において問題ないように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等電話連絡あるがご本人と直接お話し大切な時間を過ごして頂けるように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には心地よく生活できるようにご利用者から意見が出たとき等改善に努めている。又、季節に合わせたイベントや創作、外出等季節感を味わって頂けるように努力している。	新築の建物は、明るくゆったりとした造りで、利用者の書道の作品や手作りカレンダー、折り紙等、季節ごとに飾りつけを行い、家庭的な雰囲気作りに取り組んでいる。室内は清掃が行き届き、清潔で気持ちの良い共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士でお話しされることが多く場所の提供等配慮はしているがご利用者同士ご自身で好きなどころで話され、その辺は自由にできるように支援している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人によっては仏壇をおかれたり今までの使い慣れたものを置くことで安心感が出て居心地良く過ごせるように支援している。	入居前に利用者、家族と話し合い、利用者が長年使い慣れた馴染みの家具や寝具、身の回りの物、仏壇や手作り人形等、本人にとって大切な物を持ち込んでもらい、生活環境が急変しないように配慮し、利用者が安心して穏やかに暮らせる環境整備に取り組んでいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることを制限せず、まずは何事もやって頂きスタッフ間で共有し自立支援が行えるようにしている。		